

「リスペクトと強烈なライバル意識」

260212

ミラノ・コルティナ五輪での日本人選手の活躍が報じられています。早朝のテレビにくぎ付けになって、若干寝不足でもあります。

そんな大会をテレビ観戦しているなかで、私の目に留まり、素敵だなと感じること。それは、選手同士が競技を終えた後や、表彰式の際にお互いを心から称え合う姿です。

例えば、スノーボードの女子ビッグエア決勝で村瀬心椋選手が金メダルを決めた直後、各国の選手たちが“日本流”の胴上げで村瀬選手を祝う場面がありました。直前までメダルを目指して競い合ったライバル選手たちに支えられて、村瀬選手が空を舞っていました。日本独特の祝福の文化に海外選手も混じり祝う様子は、お互いにリスペクトし合っているからだと感じました。スキー、スノボ、スケートなどの冬季の種目は、ワールドカップをはじめ、世界中で行われる大会と一緒に転戦し、同じメンバーで常にぎりぎりのところでしのぎを削って戦っているからこそ、仲間へのリスペクトは芽生えるものではないかと推測します。

涙の抱擁や、レース後のやりとりにスポーツの価値や美しさがあると言えます。しかし、それだけではなく、お互いの努力や実力を認め、リスペクトし合う関係の上で成り立っている「**強烈なライバル意識**」が存在するから、観る者の心を打ち、心が動かされるのだと思います。

オリンピックから目が離せない日が、まだしばらく続きそうです。